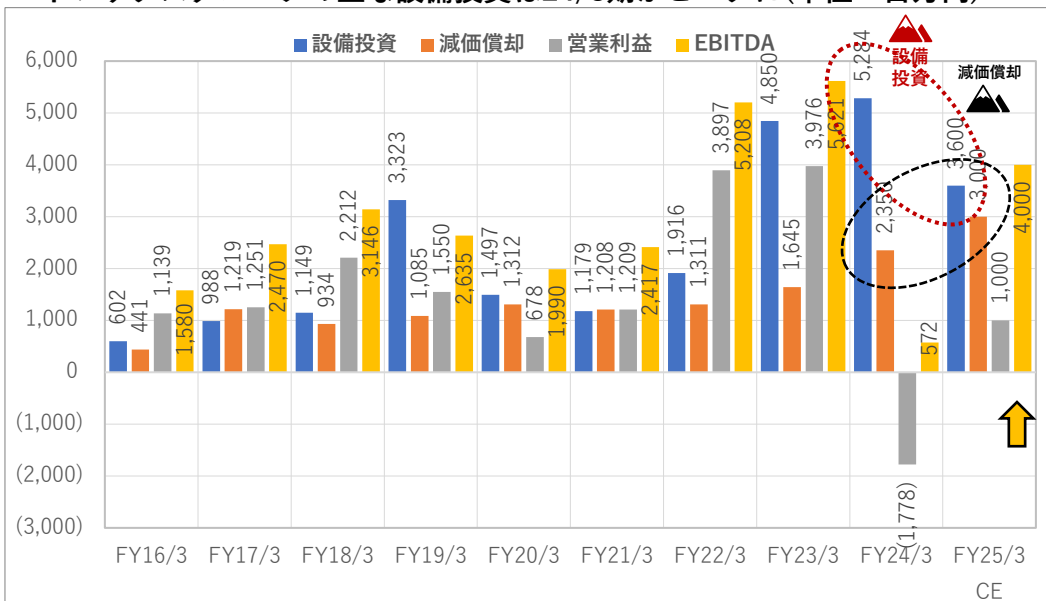


25/3期は売上高の強化が最優先課題に 大幅な評価損後の利益回復に向けて基盤が整う

サマリー

- ▶ 足元の潜在需要に力強い回復の兆しは見られないものの、流通サプライチェーンにおける在庫調整が進み、同社は2024年下期以降に売上の回復を見込んでいる。今期の最重要課題は拡販活動の施策強化である。25/3期期初の連結営業利益の業績予想は、売上高が前年同期比8.7%増の1,150百万円の寄与に加え、製造原価において生じた棚卸評価損が減少し2,370百万円となることで、営業利益は大幅に回復すると見込んでいる。設備投資費用は、前期にピークアウトしたため、前年同期比31.9%減の3,600百万円（主にフェニテック鹿児島工場のクリーンルームに導入された設備）となり、減価償却費は、新しいクリーンルームが稼働し始めていることを踏まえて、同27.7%増の3,000百万円を見込んでいる。**EBITDAは下記グラフの通り急回復しており、EV/EBITDAが5.7倍と過去10年平均を33%下回って取引されていることに注目したい。また、配当利回りは3.01%で、過去平均を24%上回っている。**
- ▶ 25/3期の経営方針については、グループの持続可能な発展のための3つの柱のうち次の2点が際立っている。「**環境保護**」－高効率・省電力のDC/DC、XCL、パワーデバイスなど、環境に配慮した製品・サービスの提供。「**経済発展**」－持続的な成長を実現するため、常にイノベーションを重視し、競争力の強化を図ることで企業価値と市場での存在感を高める。
- **トレックス：中高圧製品の早期商品化**→産業機器・車載機器用途の高性能・高品質製品→マイクロDC/DCコンバータ、XCLシリーズ・インダクタービルトインマイクロDC/DCコンバーター等。
- **フェニテック：パワーデバイス事業の推進** → 独自の技術開発 → SiCデバイス、Si（パワーMOSFET、IGBT）、酸化ガリウムなど

トレックスグループの主な設備投資は24/3期がピークに(単位：百万円)



出所：同社決算説明会資料よりSIR作成

4Q Follow-up



注目点:

5G, IoT接続機器, 自動車の電子化など新たな用途がけん引する魅力的な成長特性を備えた電源ICのスペシャリスト

主要指標

株価 (6/21)	1,859
年初来高値 (24/2/7)	1,959
年初来安値 (24/4/19)	1,631
10年高値 (21/11/30)	3,960
10年安値 (15/8/25)	830
発行済株式数 (100万株)	11,554
時価総額 (10億円)	21,479
EV(10億円)	22,742
自己資本比率(3/31)	56.1%
25.3 P/E (会予)	29.2x
25.3 EV/EBITDA (会予)	5.7x
24.3 ROE (実績)	-19.0%
24.3 P/B (実績)	0.99x
25.3 DY (会予)	3.01%

6ヶ月株価日足



出所: SPEEDA

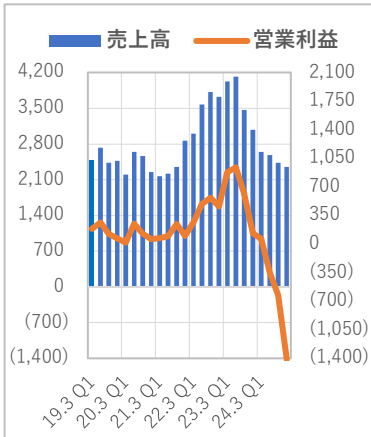
アナリスト
クリス・シュライバー CFA
research@sessapartners.co.jp



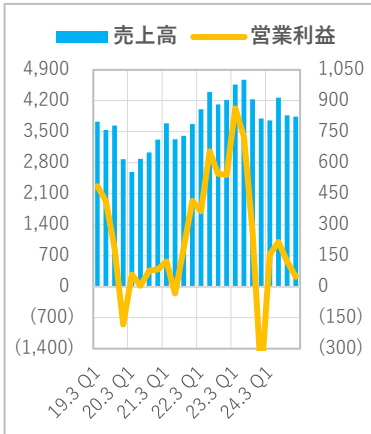
本レポートはトレックス・セミコンダクター株式会社からの委託を受けましてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレマーをご覧ください。



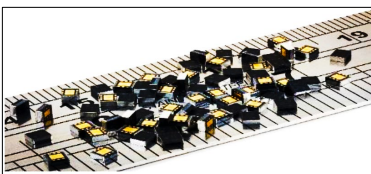
トレックス単体 (百万円)



フェニテック寄与分 (百万円)



出所: 決算説明会資料よりSIR作成



Powerfully small

“micro DC/DC” XCLシリーズ

コイルと制御ICを一体化した超小型DC/DCコンバータ。省スペースと高効率、低ノイズ、高放熱、低コストを同時に実現。

2024/3期は概ね調整ステージの最終段階に SIRの注視指標は2024年夏以降の好転を示唆

決算サマリー

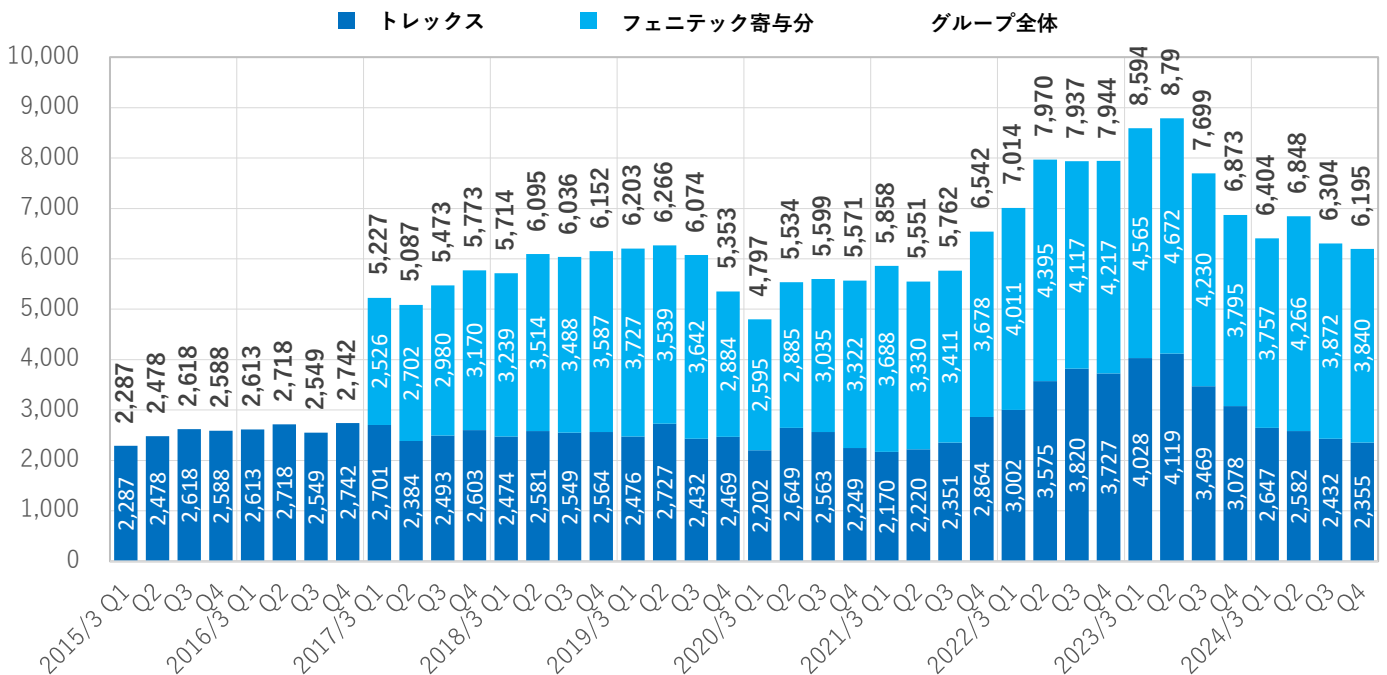
- ▶ トレックス・セミコンダクターは5月14日（火）に24/3期4Q連結決算を発表、5月17日（金）に新しく代表取締役社長に就任した木村岳史氏とフェニテック代表取締役社長の石井弘幸氏によるオンライン決算説明会を開催した。24/3期決算は、連結売上高が前期比19.4%減、営業利益が23/3期の3,976百万円から1,778百万円の営業損失、親会社株主に帰属する当期利益が23/3期の2,179百万円から4,297百万円の当期純損失となった。それでも配当は56.00円を維持した。
- ▶ 24/3期は主に2つの損失を計上した：製造原価において生じた棚卸評価損、および特別損失として生じた減損損失である。昨年11月14日に発表された在庫評価損は、中国経済の失速や下期の受注不振などにより拡大した（4Q減損予想 7億円→12.4億円）。また、8インチ生産枠の確保のために外部の協力会社の生産ラインに行った設備投資を主な理由として、17億円の減損が5月7日に発表された。さらに、多額の繰越欠損金が発生したが、回収可能性を検討した結果、繰延税金資産を取り崩すこととなった。なお、24/3期の在庫評価損は、対象在庫が売却されれば将来的に回収(戻し入れ)されることになるため、同社はその実現に努めていくとしている。

トレックスセミコンダクター 24/3期 連結決算サマリー

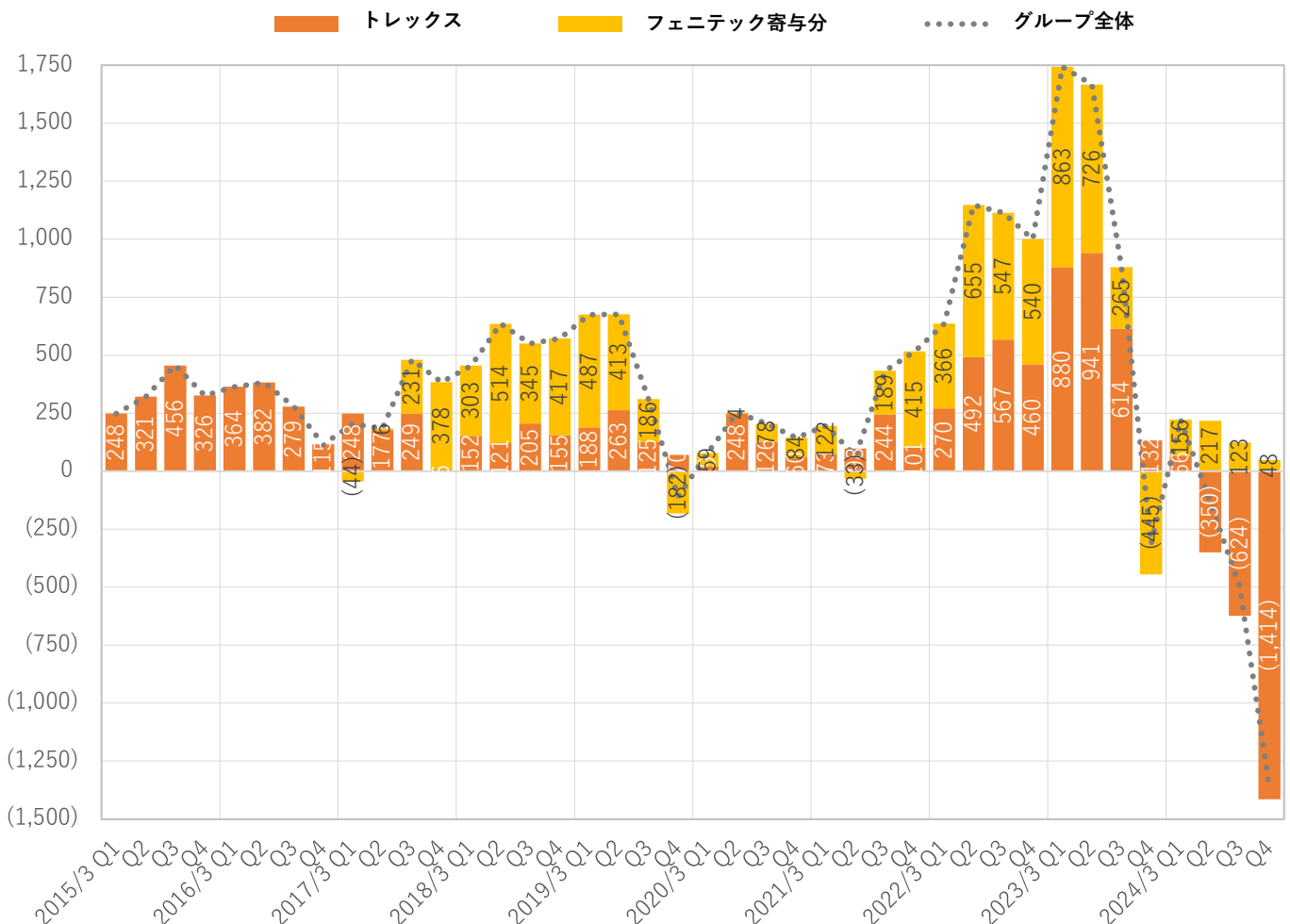
百万円、1株当たり円、%	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	24/3期	24/3期	24/3期	25/3期
(日本基準)	実績	実績	実績	期初会予	23.11.14	24.5.7	実績	期初会予
売上高	23,712	30,864	31,956	29,000	26,500	25,700	25,751	28,000
YoY	10.3	30.2	3.5	-9.3	-17.1	-19.6	-19.4	8.7
海外売上高比率(%)*	70.5%	67.6%	70.0%	-	-	-	66.5%	-
平均為替レート(米ドル=円)	¥106.2	¥112.9	¥134.9	¥130.0	¥141.0	-	¥144.4	¥150.0
営業利益	1,209	3,897	3,976	1,500	-900	-1,800	-1,778	1,000
YoY	78.3	222.3	2	-62.3	-	-	-	-
営業利益率 (%)	5.1%	12.6%	12.4%	5.2%	-	-	-	3.6%
経常利益	1,206	4,124	3,981	1,500	-1,200	-2,450	-2,452	1,000
純利益(ATOP)	933	3,157	2,179	1,050	-840	-4,300	-4,297	700
1株当たり当期純利益(円)	¥85.42	¥288.60	¥198.69	¥95.47	¥-76.36	¥-390.94	¥-390.73	¥63.63
自己資本利益率(%)	4.9	14.9	9.2	-	-	-	-	-
1株当たり配当金(円)	¥36.00	¥44.00	¥56.00	¥56.00	¥56.00	¥56.00	¥56.00	¥56.00
配当性向 (%)	42.1	15.2	28.2	58.7	-	-	-	88.0
1株当たり純資産(円)	¥1,809	¥2,078	¥2,236	-	-	-	¥1,869	-
自己資本比率 (%)	62.8	65.4	66.4	-	-	-	56.1	-
減価償却	1,208	1,311	1,645	2,487	2,487	2,487	2,350	3,000
設備投資	1,179	1,916	4,850	5,917	5,917	5,917	5,284	3,600
事業体別売上高								
トレックス単体	9,605	14,124	14,694	-	-	-	10,016	-
YoY	-0.6	47	4	-	-	-	-31.8	-
フェニテック寄与分	14,107	16,740	17,262	-	-	-	15,753	-
YoY	19.2	18.7	3.1	-	-	-	-8.7	-
事業体別営業利益								
トレックス単体	516	1,789	2,567	-	-	-	-2,322	-
YoY	13.9	246.7	43.5	-	-	-	-	-
フェニテック寄与分	693	2,108	1,409	-	-	-	544	-
YoY	208.0	204.2	-33.2	-	-	-	-61.4	-

出所：同社決算短信、及びIR資料よりSIR作成
注：海外売上高比率：外貨建て売上比率。

トレックスグループ 事業体別連結売上高の四半期推移 (百万円)

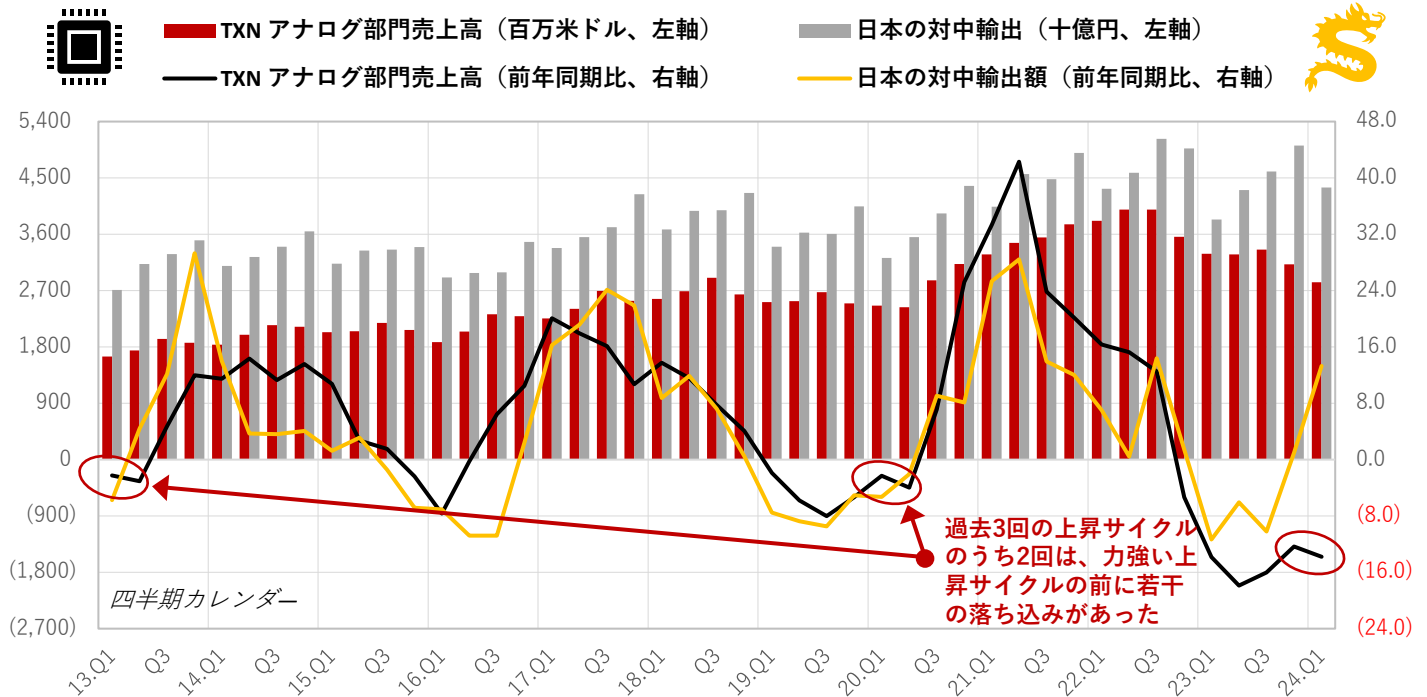


トレックスグループ 事業体別連結営業利益の四半期推移 (百万円)



出所：同社決算説明会資料よりSIR作成

★SIRがモニターしているトレックスグループの事業環境に関する主要指標は、2024年下期の回復を示している



出所：財務省貿易統計、テキサス・インスツルメンツ (NASDAQ：TXN) の過去の財務諸表、四半期セグメント収益。

日本の対中輸出からの洞察：4月の半導体輸出はプラスに転じた

▶2023年12月以降、日本の対中輸出は一般機械と自動車牽引し、全体ではプラスに転じている。しかし、3月までは流通在庫の整理が進んでいたため、半導体等電子部品とそのサブセットであるICの出荷は前年同月比マイナスが続いていた。しかし、4月には下表の通り、ともに大幅なプラスに転じた。

特定カテゴリにおける日本の対中輸出額の月次推移

十億円, %	対中輸出額 (合計)	YoY	一般機械	YoY	電気機器	YoY	半導体等電子部品	YoY	IC	YoY	自動車	YoY
2022.07	1,783	12.8	373	8.7	410	15.6	137	21.2	100	28.6	126	18.2
2022.08	1,612	13.4	332	8.7	340	7.9	90	-13.8	59	-20.6	92	55.2
2022.09	1,731	17	370	14.8	405	16.5	137	20.1	103	26.8	112	336.8
2022.10	1,720	7.7	357	-3.0	396	9.6	133	8.5	98	13.3	82	71.8
2022.11	1,632	3.5	350	-3.2	355	2.7	118	2.2	85	2.2	93	11.3
2022.12	1,618	-6.2	351	-7.7	376	-2.4	132	3.9	99	10.9	57	-50.2
2023.01	968	-17.1	208	-16.2	241	-16.0	100	-2.5	80	7.9	29	-52.1
2023.02	1,316	-10.9	301	-11.8	279	-12.1	100	1.6	75	9.5	51	-34.2
2023.03	1,552	-7.7	387	2.0	335	-11.3	120	14.9	89	33.3	32	-62.7
2023.04	1,446	-2.9	323	9.4	302	-10.8	94	2.5	63	12.5	64	-27.3
2023.05	1,341	-3.4	285	-3.0	291	-3.2	109	14.3	83	28.4	66	50.5
2023.06	1,519	-10.9	372	1.2	339	-11.7	119	-12.8	87	-10.9	74	-7.6
2023.07	1,543	-13.4	362	-2.8	325	-20.6	114	-16.8	80	-19.4	97	-23.5
2023.08	1,435	-11	304	-8.6	322	-5.1	113	25.5	82	39.4	90	-2.3
2023.09	1,624	-6.2	375	1.4	344	-15.1	106	-22.9	75	-27.2	121	7.6
2023.10	1,651	-4	373	4.4	343	-13.5	102	-23.3	71	-27.8	109	31.8
2023.11	1,596	-2.2	371	6.1	320	-9.8	99	-15.9	67	-21.9	110	18.2
2023.12	1,771	9.5	470	33.8	349	-7.1	103	-22.0	70	-29.2	101	78.7
2024.01	1,250	29.2	279	34.1	264	9.7	93	-6.7	66	-17.2	62	11.4
2024.02	1,349	2.5	353	17.4	279	0.0	96	-4.3	70	-7.0	62	22.5
2024.03	1,747	12.6	465	20.0	355	6.0	118	-1.6	83	-6.7	71	120.6
2024.04*p	1,587	9.6	390	20.5	325	7.4	110	17.1	77	22.0	87	36.0

出所：財務省関税局「貿易統計月報」よりSIR作成 *P=暫定値。



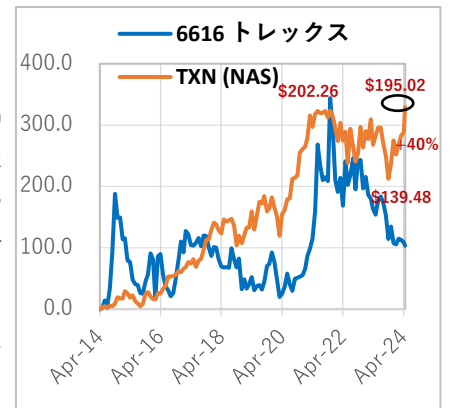
右の株価チャートにおいて、トレックスの株価が相対的にアンダーパフォーマンスになっていることは、2頁で述べた2つの大きな損失を反映している。

今後においては、前期に大幅な評価損を計上したことや、評価損の対象在庫が売却された場合に在庫評価損を回収できる可能性があることなどから、25/3期の利益回復に向けた基盤は整っている。

7-9月以降、上昇に転じる可能性が高い

世界第1位のアナログ半導体メーカー、テキサス・インスツルメンツは、米国中部時間4月23日15時30分より、2024年1Q決算説明会をウェブ配信で開催した。2Qの売上高予想は3,800百万米ドルで前期比4%増(下表参照)。アナリストの質問の多くは、流通在庫の調整進捗にフォーカスしたものであった。その後、株価は17.9%上昇し、5月17日の終値は195.02ドルで、史上最高値の202.26ドル(2021年10月25日)をわずかに2.9%下回った。

→半導体関連銘柄で重要なことは、実際に起きることの9~12ヶ月前からトレンドが変化し始めることだ。TXNの場合、底値は2023年10月30日(+40%)だった。



テキサス・インスツルメンツ (TXN NASDAQ) 4半期ごとの業績動向

百万ドル、%	FY23/12.1Q	FY23.2Q	FY23.3Q	FY23.4Q	FY24.1Q	FY24.2Q
	実績	実績	実績	実績	実績	会予*
総収益	4,379	4,531	4,532	4,077	3,661	3,800
YoY	-10.7	-13.1	-13.5	-12.7	-16.4	-16.1
QoQ	-6.2	3.5	0	-10	-10.2	3.8
● アナログ部門売上高	3,289	3,278	3,353	3,120	2,836	
YoY	-13.8	-17.9	-16	-12.3	-13.8	★上昇の前の若干の落込み
QoQ	-7.6	-0.3	2.3	-6.9	-9.1	
● 組込み向け製品収益	832	894	890	752	652	
YoY	6.4	8.9	8.4	-10.2	-21.6	
QoQ	-0.6	7.5	-0.4	-15.5	-13.3	
出荷先別**	FY23/12.1Q	FY23.2Q	FY23.3Q	FY23.4Q	FY24.1Q	
米国	555	715	630			
中国	1,831	1,820	1,880			
その他アジア	549	534	571	非開示		
欧州/中東/アフリカ*	986	956	952			
日本	289	349	338			
その他の地域	169	157	161			
最終顧客の本社所在地別	FY23/12.1Q	FY23.2Q	FY23.3Q	FY23.4Q	FY24.1Q	
米国	1,357	1,493	1,541	1,423	1,288	
YoY	-13.6	-12.5	-13.5	-8.3	-5.1	
中国	876	872	813	732	623	
YoY	-31.3	-34.9	-28.9	-30.2	-28.9	
その他アジア	394	435	434	458	401	
YoY	-27.0	-23.6	-18.7	27.2	1.8	
欧州/中東/アフリカ*	1,270	1,194	1,193	985	955	
YoY	17.7	6.6	-6.9	-25.8	-24.8	
日本	438	480	455	409	330	
YoY	11.7	15.9	2.0	16.9	-24.7	
その他の地域	44	57	96	70	64	
最終市場別	FY24.1Q QoQ		FY24.1Q YoY			
産業機器	1桁台の高範囲で減少		約25%減少			
車載機器	1桁台の中間範囲で減少		1桁台の低範囲で減少			
パーソナルエレクトロニクス	10代の中間範囲で減少		実質1桁増			
通信機器	約25%減少		約50%減少			
エンタープライズ・システム	10代の中間範囲で減少		10代の中間範囲で減少			

出所：テキサス・インスツルメンツのSEC提出書類Form10-Q(四半期有価証券報告書)およびForm10-K(年次有価証券報告書)よりSIR作成。4月23日(米国中部時間15:30)に発表されたテキサス・インスツルメンツ 2024年第1四半期決算説明会における最終市場の動向

*注：3,800百万ドルは第2四半期予想範囲の中間値：3,650百万ドル~3,950百万ドル

**注：中国向け製品からの収益には、中国で製造し世界中に出荷する顧客に対するものが含まれる。

→テキサス・インスツルメンツは、最終顧客の本社所在地別に売上高を見積もることで、重要な意思決定が行われる地理的プロフィールをより明確にすることを目指している。

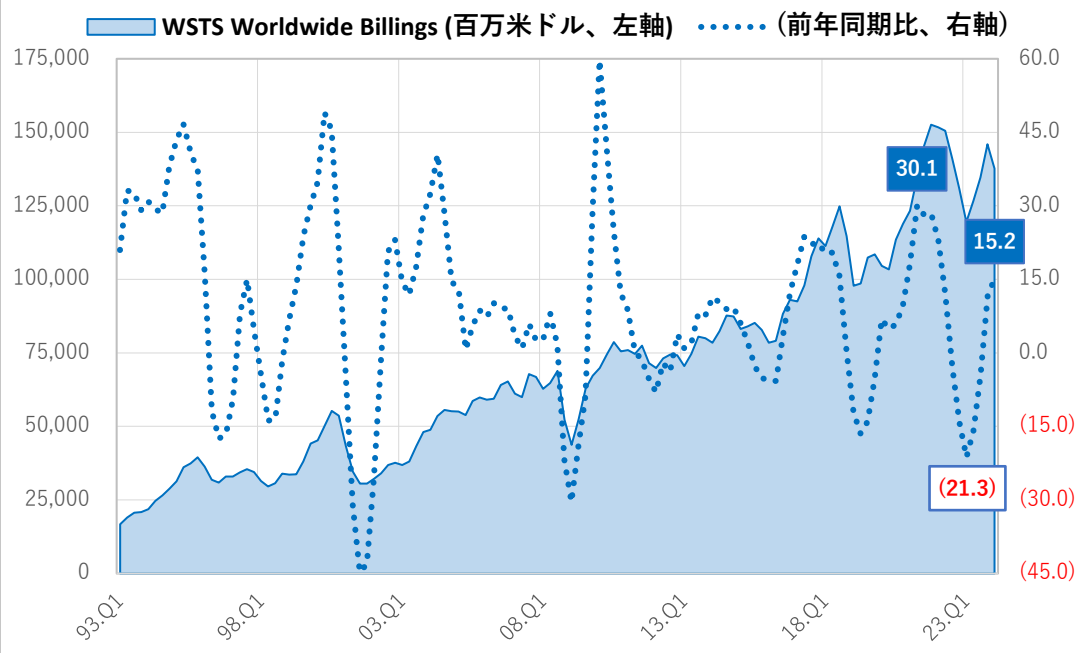
これは、トレックスによるデザイン・イン・ベースの地域別販売分類と同様のアプローチである。



WSTSが2025年初の予測見通しを発表

6月4日、WSTSは春季市場予測を発表し、2024年を上方修正し、2025年の最初の予測見通しを示した。しかし、下表の赤枠で囲ったように、AI関連や自動車関連の需要が旺盛であるとして、ロジックとメモリのみが上方修正され、他の製品カテゴリーはコロナ禍で積み上がった流通在庫の解消が遅れているとして、わずかに下方修正された。ただし、これは予測モデル自体の性質を反映したものにすぎず、2023年下期の予想よりも弱いトレンドを予測する傾向があるため、ネガティブ向きな見通しになっている。SIRは、市場はすでに2024年上期の前年同期比減少を織り込んでおり、**関連株価は下期以降の受注増加を先取りする動きになり始めているとみている。**

WSTS Worldwide Semiconductor Billingsの四半期推移
→ 2024年4月は17.5%増 (前年同期比で加速中)



出所：WSTS Worldwide Semiconductor Quarterly Historical Billings ReportよりSIR作成

WSTS 2024年春の世界半導体予測：2024年 +16.0%、2025年 +12.5%

百万米ドル (上段)	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2024	2025
YoY (下段)	実績	実績	実績	実績	実績	実績	11/23	5/24	5/24
ディスクリート	24,102	23,881	23,804	30,337	33,993	35,530	37,459	32,773	35,310
オプトエレクトロニクス	38,032	41,561	40,397	43,404	43,908	43,184	43,324	42,736	44,232
センサー	13,356	13,511	14,962	19,149	21,782	19,730	20,127	18,265	19,414
集積回路	393,288	333,354	361,226	463,002	474,402	428,442	487,454	517,457	588,425
●アナログ	58,785	53,939	55,658	74,105	88,983	81,225	84,056	79,058	84,344
●マイクロ	67,233	66,440	69,678	80,221	79,073	76,340	81,937	77,590	81,611
●ロジック	109,303	106,535	118,408	154,837	176,578	178,589	191,693	197,656	218,189
●メモリー	157,967	106,440	117,482	153,838	129,767	92,288	129,768	163,153	204,281
製品合計	468,778	412,307	440,389	555,893	574,084	526,885	588,364	611,231	687,380
ディスクリート半導体	11.3	-0.9	-0.3	27.4	12	4.5	4.2	-7.8	7.7
オプトエレクトロニクス	9.2	9.3	-2.8	7.4	1.2	-1.6	1.7	-1	3.5
センサー	6.2	1.2	10.7	28	13.7	-9.7	3.7	-7.4	6.3
集積回路	14.6	-15.2	8.4	28.2	2.5	-9.7	15.5	20.8	13.7
●アナログ	10.8	-8.2	3.2	33.1	20.1	-8.7	3.7	-2.7	6.7
●マイクロ	5.2	-1.2	4.9	15.1	-1.4	-3.5	7	1.6	5.2
●ロジック	6.9	-2.5	11.1	30.8	14	1.1	9.6	10.7	10.4
●メモリー	27.4	-32.6	10.4	30.9	-15.6	-28.9	44.8	76.8	25.2
製品合計	13.7	(12.0)	6.8	26.2	3.3	(8.2)	13.1	16.0	12.5

出所：世界半導体市場統計 (WSTS) 資料よりSIR作成。



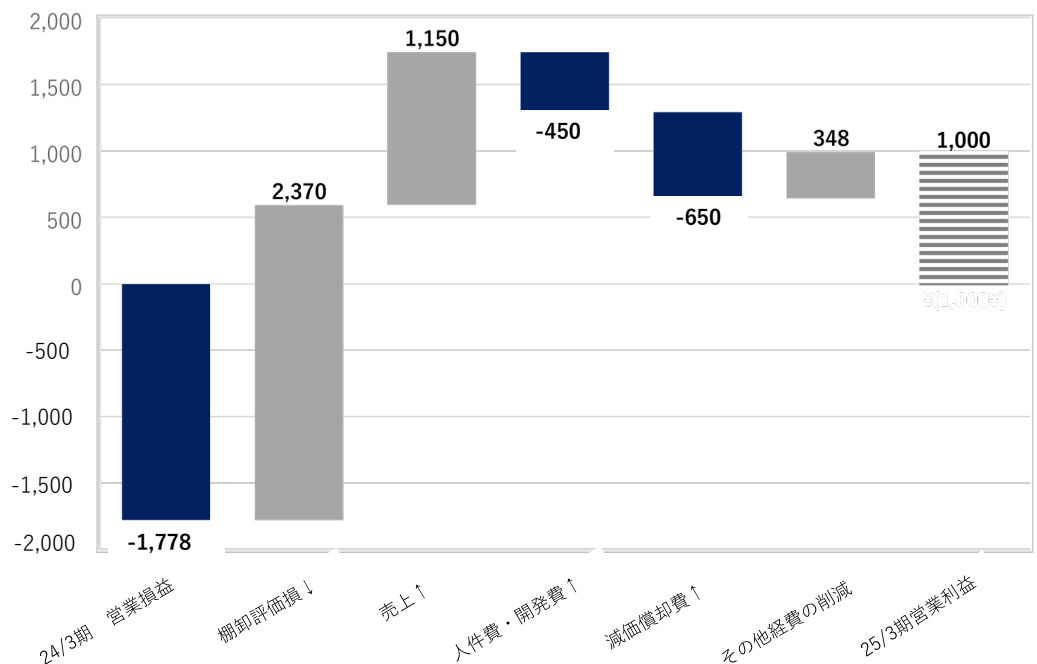
25/3期の経営方針と拡販強化に向けた重点施策

▶▶ 4月1日付で新社長に就任し、トレックス・セミコンダクターグループの決算説明会で初めてメインスピーカーを務めた木村岳史氏（10頁に経歴を掲載）は、半導体市場全体に底打ち感はあるものの、足元の基礎的な需要は力強い回復の兆しを見せるにはまだ至っていないと指摘した。しかし、流通サプライチェーンの在庫調整は進んでいるため、トレックスは2024年下期からの売上回復を見込んでおり、今期は売上高の拡販施策を強化することが最重要課題になると説明した。下図グラフに見られる25/3期期初連結営業利益の業績予想に対する要因分析の通り、売上高が前年同期比8.7%増の1,150百万円の寄与に加え、製造原価において生じた棚卸評価損が減少し2,370百万円となることから、営業利益は大幅に回復すると見込んでいる。設備投資費は、前期にピークアウトしたため、前年同期比31.9%減の3,600百万円（主にフェニテック鹿児島工場のクリーンルームに導入された設備）となり、減価償却費は、新しいクリーンルームが稼働し始めていることを踏まえて、同27.7%増の3,000百万円を見込んでいる。

▶▶ 25/3期の経営方針に関しては、持続可能な発展を実現するグループ企業となるためのサステナビリティにおける3つの柱を以下の通り掲げている。1) **環境保護** - 高効率・省電力のDC/DC、XCLシリーズ、パワーデバイスなど、環境に配慮した製品・サービスの提供、2) **社会発展** - 従業員及び組織が成長し、満足して働ける環境を整備、構築、3) **経済発展** - 持続的な成長を実現するため、常にイノベーションを重視し、競争力の強化を図ることで企業価値と市場での存在感を高める。具体的には、半導体市場における存在感を高めるため、以下の取り組みを推進する。

- **トレックス：中高圧製品の早期商品化** → 産業機器・車載機器用途の高性能・高品質製品 → マイクロDC/DCコンバータ、XCLシリーズ・インダクタービルトインマイクロDC/DCコンバーター等。
- **フェニテック：パワーデバイス事業の推進** → 独自の技術開発 → SiCデバイス、Si（パワーMOSFET、IGBT）、酸化ガリウムなど

25/3期 連結営業利益予想 要因分析（百万円）



出所：同社決算説明会資料よりSIR作成



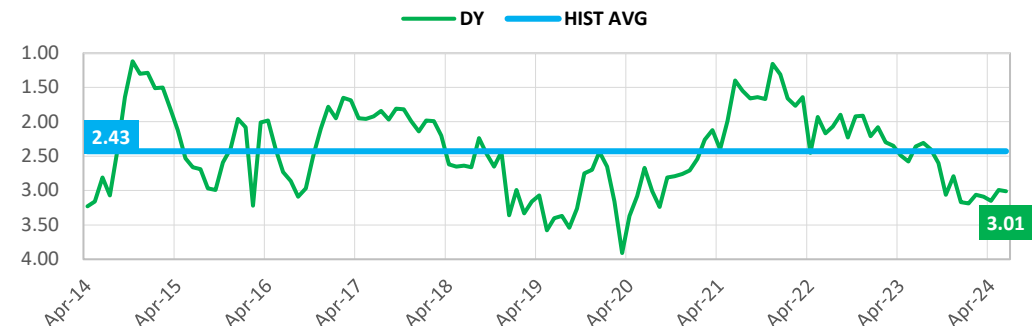
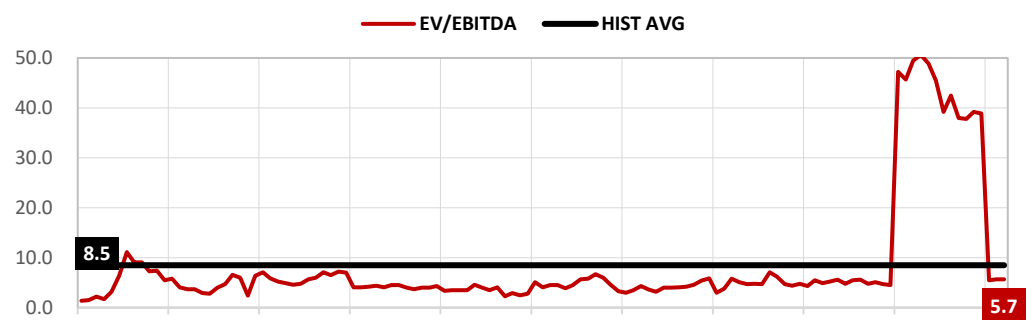
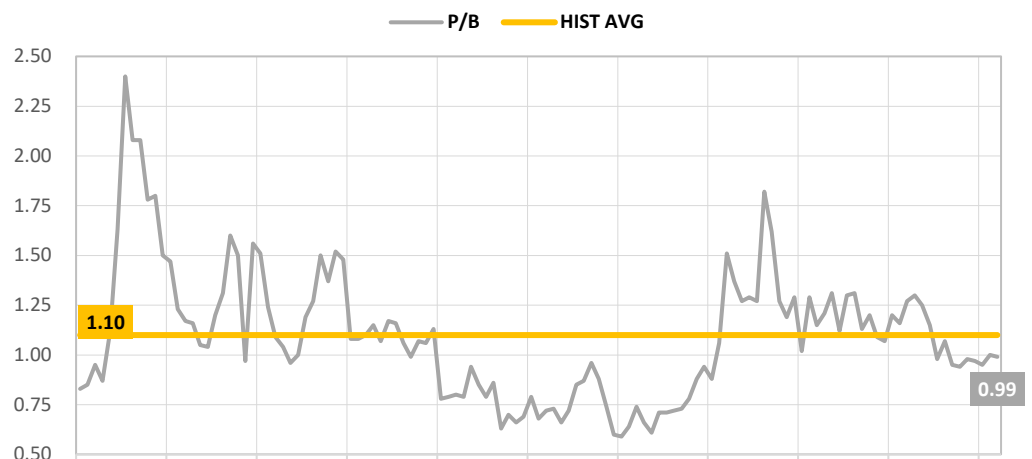
パフォーマンスとバリュエーション: SESSAスマートチャート

- ✓ 足元のPBR0.98倍は過去平均を10%下回り、配当利回りの3.05%は、過去平均を24%上回って推移している。
- ✓ 25/3期の期初ガイダンスの営業利益10億円に基づいたEV/EBITDAは5.7倍となり、過去平均を33%下回っている。
- ✓ このように株価バリュエーションが底値圏にあることは、今後、下期の受注回復を先取りして拾い始めるというSIRのスタンスが妥当であると思われる。
- ✓ トレックスの構造的な成長ドライバーは、5Gのサービス展開 /IoTデバイスの普及、EV/ハイブリッドランプ、気候変動に対応した次世代パワーデバイスへの需要などである。



アナリストの見解

10年間の月次株価・6ヶ月/12ヶ月/24ヶ月の移動平均・出来高・バリュエーション推移



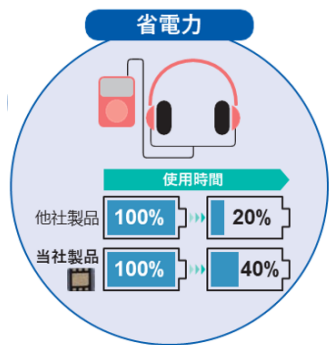
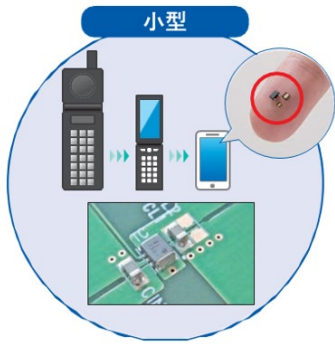
出所：SPEEDAの株価データベースよりSIR作成。バリュエーションは会社予想に基づく。

大株主の状況（2024年3月31日時点における上位10）

ランク	株主名又は名称	所有株式	% 発行済株式*
①	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,028,200	9.25%
②	PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	819,600	7.37%
③	THE BANK OF NEW YORK 133652	676,700	6.09%
④	藤阪 知之	477,660	4.30%
⑤	株式会社中国銀行	472,190	4.25%
⑥	アルス株式会社	452,000	4.06%
⑦	吉備興業株式会社	397,730	3.58%
⑧	尾崎 貴紀	321,500	2.89%
⑨	芝宮 孝司	296,700	2.67%
⑩	株式会社日本カストディ銀行（信託口）	280,130	2.52%
—	上位10 合計	5,222,410	46.96%

出所：2024年6月7日、第29回定時株主総会招集通知よりSIR作成。

*注）発行株式率は、発行済株式総数11,554,200株から自己株式434,333株を控除して算出。



海外投資家による5%ルール関連の金融庁報告書提出の傾向

日付 提出日	大量保有報告書（5.0%以上） およびその後の変更報告書*	旧 株数	更新 株数	旧 保有割合	更新 保有割合
Baillie Gifford & Co. (英国スコットランド、エディンバラ)					
2020年1月7日	大量保有報告書（5.0%超）	—	577,800	—	5.00%
2021年2月3日	変更報告書 No. 1	577,800	764,800	5.00%	6.62%
2021年12月7日	変更報告書 No. 2	764,800	1,023,500	6.62%	8.86%
2022年6月20日	変更報告書 No. 3	1,023,500	1,158,600	8.86%	10.03%
2022年12月7日	変更報告書 No. 4	1,158,600	1,041,800	10.03%	9.02%
2023年8月21日	変更報告書 No. 5	1,041,800	893,200	9.02%	7.73%
2024年5月9日	変更報告書 No. 6	893,200	774,900	7.73%	6.71%
Kaname Capital, LP (米国マサチューセッツ州ボストン)					
2023年9月4日	大量保有報告書（5.0%超）	—	583,200	—	5.05%
2023年11月22日	変更報告書 No. 1	583,200	706,400	5.05%	6.11%
2024年3月22日	変更報告書 No. 2	706,400	822,300	6.11%	7.12%

出所：金融庁のEDINET（金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム）ウェブサイトよりSIR作成。

*注：金融商品取引法では、株券等保有割合が5.0%を超える日から5営業日以内に「大量保有報告書」を、1.0%以上増減するなど変更があった場合は「変更報告書」を提出しなければならない、市場参加者全体への透明性・公正性を目指している。

還元方針、DOEと配当性向：11年間トレンド

百万円 %	FY15/3	FY16/3	FY17/3	FY18/3	FY19/3	FY20/3	FY21/3	FY22/3	FY23/3	FY24/3	FY25/3
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	期初会予
自己資本	10,527	10,797	11,172	14,429	19,671	19,053	19,634	22,335	24,100	19,186	—
配当額	291	340	305	341	425	438	396	485	621	621	—
DOE	2.7%	3.1%	2.7%	2.6%	2.5%	2.3%	2.0%	2.3%	2.6%	2.7%	—
純利益（ATOP）	1,248	580	2,931	902	1,049	418	934	3,157	2,180	-4,298	700
配当性向	23.4%	58.6%	10.4%	34.2%	39.6%	105.2%	42.1%	15.2%	28.2%	58.7%	88.0%

出所：同社決算短信よりSIR作成



▶▶ 任命の理由 *

芝宮孝司氏は、営業・開発・生産部門の要職を歴任し、2015年から2024年3月まで、代表取締役社長として強いリーダーシップと決断力を発揮して当社グループの成長に向けて全体を牽引してきた。2024年4月に代表取締役会長に就任。芝宮氏は、トレックスグループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献することが期待される。

トレックス・セミコンダクターグループ 取締役

芝宮 孝司 (64)、代表取締役 会長執行役員

株式数 出席状況	日付	略歴 同社における地位及び担当
所有する同社の株式数	1983年04月	阿部写真印刷(株) (現アベイズム株式会社)入社
296,700 株	1986年08月	日本プレジジョンサーキット(株) (現セイコーNPC株式会社)入社
取締役会出席状況	1987年10月	株式会社リコー入社
100%	1993年04月	フェニテックセミコンダクター株式会社入社
	1999年07月	同社入社
	2002年06月	同社取締役 営業本部本部長
	2009年06月	同社常務取締役 営業本部本部長
	2014年06月	同社専務取締役 事業本部本部長
	2015年06月	同社代表取締役 社長
	2016年06月	同社代表取締役 社長執行役員
	2020年06月	同社代表取締役 社長執行役員 兼 国内営業本部本部長(現任)
	2024年04月	同社代表取締役 会長執行役員 (現任)



木村 岳史 (58)、代表取締役 社長執行役員

株式数 出席状況	日付	略歴 同社における地位及び担当
所有する同社の株式数	1989年4月	(株)リコー入社
38,300 株	2003年4月	トレックスデバイス(株) (現 同社) 入社
取締役会出席状況	2007年4月	同社開発本部 製品開発1部 部長
100%	2015年6月	同社執行役員 事業本部 本部長
	2016年6月	同社取締役 執行役員 事業本部 本部長
	2018年6月	同社取締役 常務執行役員 営業本部 本部長
	2020年6月	同社取締役 常務執行役員 開発本部 本部長
	2021年9月	同社取締役 常務執行役員 開発本部 本部長 兼 管理本部 上席本部長
	2023年4月	同社取締役 専務執行役員 開発本部 本部長
	2024年4月	同社代表取締役 社長執行役員 (現任)



▶▶ 任命の理由 *

木村岳史氏は、開発・営業・管理部門の要職を歴任し、エンジニアとしてトレックスグループ製品の設計・開発を中心とした豊富な経験と専門的な知識を有しており、2024年4月に代表取締役社長に就任した。木村氏は、中期経営計画の下、トレックスブランドの価値向上への活動を指揮している。

石井 弘幸(62)、フェニテックセミコンダクター(株) 代表取締役 社長執行役員

株式数 出席状況	日付	略歴 同社における地位及び担当
所有する同社の株式数	1984年4月	フェニテックセミコンダクター(株)入社
20,450 株	2003年2月	フェニテックセミコンダクター(株) 生産本部 技術部 部長
取締役会出席状況	2008年4月	フェニテックセミコンダクター(株) 執行役員 生産本部 技術部 部長
100%	2015年6月	フェニテックセミコンダクター(株) 取締役 生産本部 技術部 部長 兼 開発部 部長
	2016年4月	フェニテックセミコンダクター(株) 取締役 生産本部 副本部長
	2017年9月	フェニテックセミコンダクター(株) 取締役 事業企画室 室長
	2019年6月	フェニテックセミコンダクター(株) 取締役 常務執行役員 事業企画室 室長
	2020年6月	フェニテックセミコンダクター(株) 代表取締役 社長執行役員 (現任)
	2020年6月	トレックス・セミコンダクター(株) 取締役 (現任)



▶▶ 任命の理由 *

石井弘幸氏は、同社子会社のフェニテックセミコンダクター(株)代表取締役社長執行役員を兼務している。石井氏は、フェニテックセミコンダクター(株)において、技術・開発部門及び経営企画部門の要職を歴任し、製造・開発並びに同社グループの事業経営に関する豊富な経験と専門的な知識を有しており、同グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に貢献することが期待される。

* 29回定時株主総会招集通知よりSIR要約 出所：同通知よりSIR作成。

LEGAL DISCLAIMER

ディスクレーム／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や情報は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



SESSAパートナーズ株式会社

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a
info@sessapartners.co.jp